

登園許可証明書

オハナ上永谷保育園施設長殿

入所児童名 _____

病名『 _____ 』

_____年 _____月 _____日から病状も回復し、集団生活に支障がない状態になったので登園可能と判断します

_____年 _____月 _____日 医療機関名 _____

医師名 _____ 印又はサイン _____

保育所は、乳幼児が集団で長時間生活を共にする場です。
感染症の集団発症や流行をできるだけ防ぐことで子どもが一日快適に生活できるよう、
下記の感染症について登園許可証明書の提出をお願いします。

感染力のある期間に配慮し、子どもの健康回復状態や集団での保育所生活が可能な状態となってからの登園にご配慮ください。

○医師が記入した意見書（登園許可証）が必要な感染症

NO	感染症名	感染しやすい期間	登園のめやす
1	麻疹（はしか）	発症1日前から発疹出現後の4日後まで	解熱後3日を経過してから
2	インフルエンザ	症状がある期間（発症前24時間から発病後3日程度までが最も感染力が強い）	発症した後5日を経過し、かつ解熱した後2日を経過するまで（乳幼児にあっては、3日を経過するまで）
3	風疹	発疹出現の前7日から後7日間くらい	発疹が消失してから
4	水痘（水ぼうそう）	発疹出現1～2日前から痂皮形成まで	すべての発疹が痂皮化してから
5	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	発症3日前から耳下腺腫脹後4日	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫脹が発現してから5日を経過するまで、かつ全身状態が良好になるまで
6	結核		医師により感染の恐れがないと認めるまで
7	咽頭結膜熱（プール熱）	発熱、充血等症状が出現した数日間	主な症状が消え2日経過してから
8	流行性角結膜炎	充血、目やに等症状が出現した数日間	感染力が非常に強いいため結膜炎の症状が消失してから
9	百日咳	抗菌薬を服用しない場合、咳出現後3週間を経過するまで	特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療を終了するまで
10	腸管出血性大腸菌感染症（O157. O26. O111）		症状が治まり、かつ、抗菌薬による治療が終了し、48時間をあけて連続2回の検便によって、いずれも菌陰性が確認されたもの
11	急性出血性結膜炎	ウイルスが呼吸器から1～2週間、便から数週間～数ヶ月排出される	医師により感染の恐れがないと認めるまで
12	髄膜炎菌性髄膜炎		医師により感染の恐れがないと認めるまで

登園の際には、下記の治癒届の提出をお願いいたします。

※ 登園のめやすは、子どもの全身状態が良好であることが基準となります

治癒届(保護者記入)	
保育所施設長殿	入所児童名 _____
病名 _____ と診断され、	
年 月 日	医療機関名 _____ において
病状が回復し、集団生活に支障ない状態と判断されましたので登園いたします。	
保護者名 _____	印又はサイン _____

保育所は、乳幼児が集団で長時間生活を共にする場です。感染症の集団での発症や流行をできるだけ防ぐことはもちろん、子どもたちが一日快適に生活できることが大切です。

保育所入所児がよくかかる下記の感染症については、登園のめやすを参考に、かかりつけの医師の診断にしたがい、治癒届の提出をお願いいたします。なお、保育所での集団生活に適應できる状態に回復してから登園するようにしてください。

●医師の診断を受け、保護者が記入する治癒届けが必要な感染症

NO	病名	感染しやすい期間	登園のめやす
13	ヘルパンギーナ	急性期の数日間(便の中に1ヶ月程度ウイルスを排泄しているため注意が必要)	発熱や口腔内の水泡・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
14	手足口病	手足や口腔内に水泡・潰瘍が発症した数日間	発熱や口腔内の水泡・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
15	りんご病(伝染性紅斑)	発しん出現前の1週間	全身状態がよいこと
16	溶連菌感染症	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後1日間	抗菌薬内服後1日～2日経過していること
17	ウイルス性胃腸炎(ノロ、ロタ、アデノウイルス等)	症状のある間と、症状消失後1週間(量は減少していくが数週間ウイルスを排泄しているため注意が必要)	嘔吐・下痢等の症状が治まり、普段お食事がとれること
18	マイコプラズマ肺炎(うつる肺炎)	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後数日間	発熱や激しい咳が治まっていること
19	突発性発疹	発熱中	解熱し機嫌が良く、全身状態が良いこと
20	ヘルペス性歯肉口内炎(単純ヘルペス感染症)	水泡を形成している間	発熱がなく、よだれが止まり、普段の食事ができること
21	とびひ(伝染性膿痂疹・皮膚性膿症)	効果的治療開始後1日間	皮疹が乾燥している、または湿潤部位が被覆できる程度のとき
22	水いぼ(伝染性軟属腫)		かきこわし傷から滲出液が出ているときは被覆すること
23	RSウイルス感染症	呼吸器症状のある間	呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと
24	帯状疱疹	水泡を形成している間	すべての発疹が痂皮化(かさぶた)してから